

令和5年度 美術館協議会 会議録

日 時	令和5年3月16日(木) 15:30~17:15
場 所	福岡市美術館 レクチャールーム
出席者	協議会委員：浦上会長外 計11名 福岡市美術館：中山総館長外 計8名 福岡アジア美術館：柴田総館長外 計7名
議題	(1) 福岡市美術館令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について (2) 福岡アジア美術館令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

1 開会

2 総館長挨拶(内容省略) 福岡市美術館総館長 中山より挨拶

3 議題

(1) 正副会長の選任

(福岡市美術館金子課長)

福岡市美術館条例第17条、福岡市美術館条例施行規則第23条に基づき、委員の互選により定めることになっているが、どなたか会長、副会長へのご意見はないか。

意見がなければ、事務局としては再任委員の方から会長を福岡大学の浦上委員に、また、副会長は植野委員にお願いしたい。異議がなければ、拍手をもって承認いただきたいがよろしいか。

～(拍手)～

それでは、会長を浦上委員、副会長を植野委員にお願いする。

(2) 福岡市美術館令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

主事後藤より報告

(3) 福岡アジア美術館令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

係長ラワンチャイクンより報告

会 長	それでは、福岡市美術館と福岡アジア美術館の説明について、ご質問や意見をおうかがいしたい。
委 員	福岡市美術館の“どこでも美術館”の開催時間、学校での開催は授業中か夏休みか、準備にかかる時間についてたずねる。

事務局 (福岡市美術館)	公民館は2時間程度の開催を希望されることが多いので合わせている。学校での開催は特別支援学校等で、授業の中で行っている。開催が決定したら打合せを行い、準備に必要な時間等を話し合う。準備は大体1時間程度である。
委員	市美術館、アジア美術館ともに、日頃から楽しく観覧している。美術館においては、来館者数が館を評価するポイントになっていることが多いが、来館者は少なくとも、内容が良い展示や、アンケートの反応が良いものなどがあると思う。文化事業・芸術の領域において評価の枠組みを検討すると、美術館の存在意義を考えるきっかけになる。今後検討して欲しい。
事務局 (福岡市美術館)	昔から美術館は来館者数を競っているが、交流・参加型の事業が増えたことにより評価が難しくなっている。ミュージアムの活動全体をどう評価するかということについて、議論がなされ確立されていくのだと思っている。今年度開始したFukuoka Art Nextはアーティストへの支援を中心とした、アートで街を活性化する活動については一定の評価をいただいているのではないかと感じるが、客観的に評価をしていくことが大きな課題だと思っている。アンケートについては肯定的な意見が多い。
委員	コロナ禍においては、美術館は感染症防止対策にしっかりと取り組まれていたと思う。 コロナが収束することで、今後韓国など海外の来館者が増えると思う。美術館として考えていることがあれば聞かせて欲しい。
事務局 (福岡市美術館)	市美術館においては、コレクション展の今年1月の観覧者は38%が外国人であり、特に韓国からの来館者が大変多い。そのような人達にどのようなサービスができるのか。言葉の壁を取り除くことも必要だと考えている。 田中千智さんが壁画を制作している時に、海外からの来館者が田中さんと会話を交わしていた。機会があれば、そのような取り組みも行っていきたい。
事務局 (福岡アジア美術館)	アジア美術館においても、海外からの来館者が増えている。解説キャプション等を多言語対応しているが、気持ちよく鑑賞して貰えるように引き続き対応していく。
委員	アメリカの美術館は、その施設や展示が持つメッセージを伝えるのが上手い。 Fukuoka Art NextがF a Nなどシンプルなものを目印にすることで、若者が美術館に行こうとなると良い。福岡県立美術館も建設さ

	れるので、区別がつくようにすると良いのではないかと。
事務局 (福岡市美術館)	館の枠を超えて、地域で統一したデザインを考えることも良いと思う。また、大濠公園の美術館が2つになるということを踏まえ、美術館同士で連携・情報交換を行いWinWinの形で活動することで、より認知されるようになる。
委員	例えば1 day-ticketをつくり、それを持っていけば一日中どの美術館も観覧できるなど良いと思う。
委員	ジェンダーバランスに関連した展示は非常に良かった。芸術家は元々男性が多いのか。ジェンダーバランスを取る必要があると感じた。
事務局 (福岡市美術館)	女性の作家は、歴史的に男性の中に隠れた存在だったということもあり、男性に比べると少数ということはあるかと思う。そういったことを踏まえて、福岡市美術館では昨年ジェンダーバランスを見直し、これからもバランス良く展示しようと考えている。
委員	福岡市美術館資料33ページの“バリアフリーギャラリートour”の内容についてお尋ねしたい。
事務局 (福岡市美術館)	3日間、1日ずつ違う障がいの対象者がコレクション展を楽しんだ。 1日目：触れる作品など、視覚障がい者と目が見える方が一緒に作品を鑑賞した。 2日目：聴覚障がい者を対象に手話通訳を介してトークを開催した。口述筆記によるサポートも行った。 3日目：以前、車いす利用者と使ったことがない人が一緒に参加したが、あまりうまくいかなかったため、当事者と使ったことがない人を分けて開催した。
委員	リニューアルオープンして動線が良くなったり、バリアフリーの視点で使いやすくなったと思うが、九州国立博物館も様々な取り組みをされている。博物館と美術館の違いはあると思うが、様々な当事者が使い易い美術館の視点をもっとあってよいと感じた。 ソーシャルインクルージョンやダイバーシティの観点から、“視覚障がい者のための”という表記は時代に合っていないのではと感じる。 ここ数年のコロナ禍は、人と人との接触に制限が求められ、子どもたちにとって、さまざまな弊害もあると考える。そのような状況の中で、子どもの表現の場を確保することは、大切なことだと考える。 県立美術館が休館（令和5年2月28日～6月4日・令和5年12月26

	<p>日～令和6年3月31日)となるので、中学校の美術展の会場の確保が難しい状況である。高校、大学の卒展や修了展同じ状況だと思う。子どもたちの表現・発表の場を確保するために、学校関係の作品展開催には、ご理解とご協力をお願いしたい。</p>
<p>事務局 (福岡市美術館)</p>	<p>“バリアフリーギャラリーツアー”の取り組みを始めたのは、まず美術館の存在を当事者の方に知ってもらうためである。やることによつて、「美術館は行っていい場所、おもしろい場所」となればいいと考えている。とりあえず5年間やってみて、どう発展させるかが次の課題である。</p> <p>ソーシャルインクルージョン、ダイバーシティの面では、この3年間で皆の意識が変わったと感じている。このタイトルで良いのかは、もう一度考える必要があると思う。タイトルを考えながら、活動を実施していきたい。</p> <p>社会の変化に対して、私たちはどう変化していくか。アンテナを張りながら、進んでいきたい。</p>
<p>事務局 (福岡市美術館)</p>	<p>子どもたちの表現・発表の場の確保については要望としてお伺いする。</p> <p>コロナの収束によりギャラリーの応募は増えており、お断りしている状況。時期的に集中することもあるので、時期が柔軟であれば対応し易い。</p>
<p>委員</p>	<p>“バリアフリーギャラリーツアー”を含め、視覚障がい者と晴眼者と鑑賞をする活動をしている。晴眼者が、視覚障がい者に「見えているのに見ていない」ということを気づかされる。そのような気づきがあることに意味がある。これからも続けて欲しい。</p> <p>FaN WeeKの際、アプローチ広場で、障がいを持つアーティストたちによるライブペインティングを行った。大濠公園を散歩している人や子どもが突然参加して、アーティストと一緒に絵を描く活動となった。アプローチ広場は美術館への導入になる。活動を楽しみにしている。</p>
<p>事務局 (福岡市美術館)</p>	<p>美術館の使い方が限定的にならないよう、美術に関するだけでなく、より幅広い文化芸術活動を目的に利用できるようにしている。また、例えば作品の解説文については、専門用語ばかりでは難しすぎることから、当美術館では“おもしろキャプション”といって、学芸員が専門用語を使わずにしかも自分の主観を記述する取り組みも行っている。</p>

委員	<p>初めてのベビーカーツアアの目的は何か。</p> <p>私は児童養護施設に関わってきた。センシティブな子ども達が、刺激的な感覚や、あのよう描くことが出来るんだということを知るチャンスなどがあれば聞かせて欲しい。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>ベビーカーツアアは、教育専門の学芸員が出産した際、社会と切り離されていると感じた体験がもとになっている。美術館に子どもと一緒に連れて行けることを知らせる意味からも開催した。</p> <p>参加者の感想は、「久々に美術の話ができた」「家族全員で来られた」などがあり、やって良かったと感じている。</p> <p>実は、美術館に子ども達のシェルターから見学の相談があった。何度か来館計画を立てたのだが、緊急事態宣言が出て実現しなかった。今後もトライしていきたい。一方、発達障がいのある子ども達の団体については来館してもらったことがある。美術館は安心安全な癒しの場所だと思っているので、来年度も来ていただけるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>3年間のコロナの影響、美術館の教訓について伺いたい。</p> <p>大学では対応に追われたが、遠隔授業の良さに気づいた。</p> <p>美術館の新しい取り組みがあれば聞かせて欲しい。</p>
事務局 (福岡市美術館)	<p>臨時休館を3回行った。コロナの影響で来館者が激減したが、美術館は来ていただいてこそ施設である。その中で重要度が上がったのがアウトリーチの活動である。来館を待つだけでなく、美術館から積極的に出向き、美術館・美術の理解を深めていく。これからの美術館の活動の大きな柱のひとつと考えている。</p> <p>一方で3Dが発達して、国立科学博物館では3Dを使ったプログラムをインターネット上で行っている。どうやって興味をもって貰い、来館してもらうことにつなげるか。アートのあり方の変化に、美術館がどうやってついていくかが課題であると思う。</p>
委員	<p>福岡市美術館・アジア美術館に来館した韓国人のブログには、福岡市美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの韓国語表現が正確で役に立った、</li> <li>・200円で本物の作品が見られて嬉しかった。</li> <li>・特別展が撮影禁止で残念だった。</li> <li>・古美術展がなぜ暗いのか疑問に思った。</li> </ul> <p>などがあった。</p> <p>アジア美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展は撮影OKで嬉しかった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QRコードが利用出来て役に立った。</li> <li>・韓国で東南アジアの作家の作品をまとめて見るのは難しいが、アジア美術館ではまとめて見る事ができて良かった。</li> </ul> <p>などがあった。</p>
委員	<p>福岡市の美術館は、社会問題も考えて取り組んでおられ、参考になる。</p> <p>独自の展示・企画の充実に期待しているが、こなれたイベント業者の持ち込みの比重が大きい印象もある。集客は大切だが、館独自の展示・企画に果敢に取り組んで欲しい。</p> <p>アウトリーチなどのプログラムと特別展・企画展は必ずしも連動する訳ではないが、連動しつつ開催できれば素晴らしい。期待している。</p>

4 総館長挨拶（内容省略）      アジア美術館総館長柴田より挨拶

5 閉会